

「道徳教育の進め方・道徳の時間の学習指導案作成」

講師 高知大学教育学部 田邊 重任 准教授

初任者研修

10年経験者研修

課題等研修Ⅱ

共通課題研修Ⅲ

平成25年8月5日(月)実施

概要

道徳教育の進め方についての講義を通して、道徳教育の基本的な在り方について研修するとともに、読み物資料をもとに資料分析及び学習指導案作成の演習を行う。さらに、本研修での成果をもとに道徳の授業を行い、実践的指導力を身に付ける。

研修Ⅰ【講義】 道徳教育の進め方

「通して」：ここからここまで
「通じて」：限なく

小学校・中学校学習指導要領 第1章 総則

第1 教育課程編成の一般方針

2 学校における道徳教育は、道徳の時間を要（かなめ）として学校の教育活動全体を**通じて**行うものであり・・・

学校の教育活動全体
(道徳教育)

道徳教育というのは朝、子どもたちが学校へ来て、教科の時間、休み時間、給食の時間、昼休み、部活動など下校するまでの全ての教育活動を通じて行います。
その要となるのが
「道徳の時間」です！

要（道徳の時間）



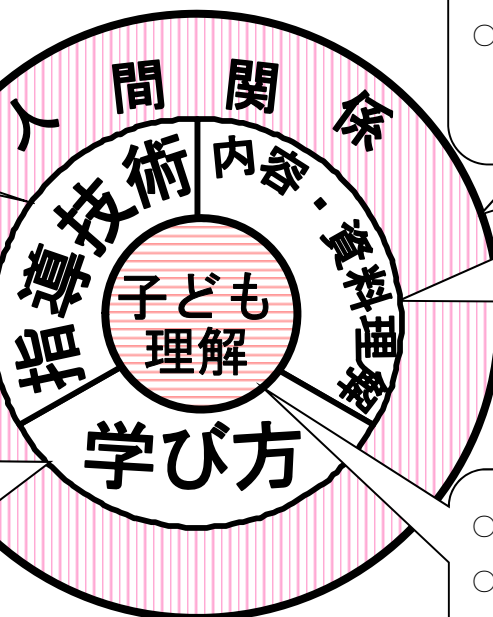
道徳の時間を活性化するには

指導技術

- 板書、発問や切り返しの仕方を工夫する。

学び方の指導

- ① 話し方の指導
 - ・ 短い言葉ではなく、息の長い発言を指導
- ② 聞き方の指導
 - ・ 静かに聞く指導
 - ・ 体で聞く
 - うなずきながら、相手を見ながらなど
 - ・ 心で聞く
 - 発言者がどんな思いで言っているのかを考えながらなど
- ③ かかわり方の指導



【道徳授業活性化の要件】

道徳的実践力

- 道徳的行為・実践をすることができる内面的資質、人格的特性
- 実践を支えている能力
- 内なる力

内面から外面へのベクトル

こういうことをするのが望ましい、人間として価値があることなのだと考えて行為や実践をしていく指導

道徳的行為・実践

あたたかい人間関係

- 子ども同士・・・何を言っても認めてもらえる関係
- 子ども対教師・・・すべてを受け入れてくれる関係

↓
素直な自分の気持ちを述べる
ことができる。

内容・資料理解

- 内容項目との観点で、資料をどう読んでいくのか、教師の読みの深さが求められる。
- 子どもに「読み」で負けないように。

子ども理解

- 子どもの反応が「分かる」「見える」ということ。
- 子どもたちの予想する反応が想定できるため、「あの子を中心に授業をつくらう」という授業づくりができる。



外面から内面へのベクトル

行為や実践をすることによって、内面を育てようとする指導

資料分析、授業構成のポイント

道德の資料

- 一般的に、主人公が道德的に低い部分から、道德的変化がおこって、道德的に高い部分に変化することがえがかれている。

道德的变化をしたのは誰か、どこか、なぜかを押さえる。

基本発問（1時間に多くて3つか4つ）のなかで、重要で欠かすことのできない発問である。
中心発問を明らかにするという事は、資料における道德的価値を明らかにする必要がある。

資料の流れ

起

承

転

結

感情の盛り上がり

危機克服の困難さ
仲間との確執
登場人物同士の感情の緊張感など

道德的变化が起こる。
行為、行動、言動、表情で表現している。

中心発問

登場人物の道德的価値の自覚

子ども自身の道德的価値の自覚へ

- 子どもの心に残るようなよい資料を選択する。
- 作者の視点で「どのように資料がつくられているのか」を読み取る。

道德的变化をしたわけ、変化をさせる人・もの・こと（助言者という）に着目する。
助言者のいない資料もあるが、その際の助言者は「自分の良心」である。

子ども

距離を縮め、一致させていく
「共感させる」
共感の原則
① 主人公の置かれた状況に共感させる。
② 主人公がとった行動に共感させる。

資料

学習指導案作成で使用した資料

- 小学校低学年グループ「モムンとヘーテ」（光文書院）
- 小学校中学年グループ「妙見山のちかい ー岩崎弥太郎ー」（高知県教育委員会）
- 小学校高学年グループ「夏の日のこと」（文部科学省資料）
- 中学校グループ「山寺のびわの実」（廣済堂あかつき株式会社）



作成した学習指導案をつかって、実際に授業をしてみてください。
納得のできる授業はなかなかできません。しかし、繰り返していくことで指導力は高まっていきます。

	主な発問と予想する児童生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. 友だちとの関わりについて自分の生活をふり返る。 「友だちとけんかをしたことある？」 ・ある 「友だちにいじわるをされたことがある人？」 ・挙手	・児童のこれまでの経験と思い出させ、資料のモムンの気持ちに近づけ内容に入らせる。 ・体験については深く聞かず、あやふさな印象で表現させる。（ふたつにふたつに）
展開	2. 資料「モムンとヘーテ」を読んで話し合う。 (1) 「クワのみは、ぼくがみんなもうろうよ」と言われた時、モムンはどんな気持ちだっただろう？ ワークシートにモムンの気持ちを書き込ませる。 ・ずるいね ・いいね ・ひどい ・かわいそう ・ぼくもクワのみがほしかったな ・もういっしょにあげよう	・一度に全て読むと分らなくなる児童がいるので、場面に分けて読み進める。 ・挿し絵2枚目の絵をワークシートに貼る。 ・なかなか書き出せない児童には「モムンはうれしかったのかな？」と問いかけ、想像するよう声を掛ける。
閉	(2) ヘーテに話しかけられた時、モムンはどうしてだまっていたのかな？ ・おどっていたから ・やるせない ・話けたくない ・さあがある！ (3) モムンはどんな気持ちで「いっしょにあげよう」と言ったのかな？（中心発問） ・ヘーテがかわいそう。 ・いじわるされたけど、たすけてあげないと。 ・にげないよ、こはあふない。 ・おいしかったらいいね、あつち、ひどい。 ・友だちだし	・P91 6行目～P93 14行目まで読む。 ・挿し絵4にふたしを付けたワークシートにモムンの気持ちを記述させ、一人ひとりが自分の意見をもちよりにする。 ・P93 24行目～最後までを読む。 ・挿し絵4にふたしを付けたワークシートにモムンの気持ちを記述させ、一人ひとりが自分の意見をもちよりにする。

【グループごとに作成した学習指導案の一例】

〈受講者の感想〉

- ・ 今回の講義を受けるまでは、道德教育は道德の時間にやっていけばよいという意識だったが、教育活動全体を通じて行っていくものであるということを知り、道德教育に対する意識が大きく変わった。
- ・ 実践するにあたっての課題は、主人公に子どもたちをいかに共感させられるかだと思う。「良い話だった」など感想で終わることのないよう、教材研究を重ね、主人公と自分が重なったり、自分はここが違うなどの意見をもてるような授業をしたい。
- ・ 指導書を見てもなかなか授業のイメージが湧かなかったが、グループで考えながら学習指導案を作成していると、子どもたちの予想される反応も出し合うことができ、どのように授業を展開していくかをイメージすることができるようになった。